わたしに「ちから」をくれたこと

福島県いわき市立四倉中学校

三年 千葉 奈央

「自信を持ち、何事にも挑戦する」

これは、私がこの夏休みに心に誓ったことだ。

私は中学一年から生徒会役員を務め、現在は生徒会長という立場にある。ずっと関わってきた生徒会で、先輩の仕事もよく見ていたつもりだった。しかし、いざとなると、他の役員たちをしつかりまとめられるか、行事でのあいさつは上手にできるかなど不安だらけで、会長の重責をしつかりと担うだけの自信がなままだった。また、相手の反応を気にするあまり、授業や話し合いの時も意見をはっきりと言えずに、遠慮してしまうことも多かった。

そんな中、「いわき生徒会長サミット」に参加することになった。これは、市内の中学校の生徒会長を中心に構成されるリーダー育成事業である。さすがに各校のリーダーだけあって、積極的に自己アピールする人が多く、私は気後れしてしまった。自分の意見を強く言えず、周りの人に押し切られてしまうこともあったが、徐々に雰囲気にも慣れてきた。

夏休みには、生徒会長サミットメンバーを中心に市内の中学三年生対象の「長崎派遣事業」にも参加した。私は中学一年生の時に書道で中国撫順市に派遣され、本場の書道や文化に触れる機会を得た。そ

の経験から、実際に見聞きし、学ぶことの重要性を学んでいたからである。私はこの長崎派遣に申し込むまで、平和について深く考えたことがなかった。戦争や平和という言葉は、授業で学ぶ歴史の出来事の一つでしかなかった。そこで、平和について自分の考えを深めたいと思ったのだ。

しかし、そこからが大変だった。この派遣では、メンバーが十五名ほどの二つのグループに分かれ、交流会や集会においていわき市についてのプレゼンテーションをするのだ。私たちは、一学期末から出発まで七日間も集まりプレゼンの準備会をした。ところが、私たちA班は意見がまとまらないなどのトラブルも多く、いったん完成したプレゼンを白紙に戻して、一から作り直したこともあった。仲間とメールで何回も意見のやりとりをした。そして、何とか出発前にぎりぎり形になった。

A班の発表は、平和集会という雰囲気を考え、さらに十五分という厳しい時間制限もあり、長崎に着いてからもプレゼンの改善を毎晩遅くまで行っていた。そんな中、B班が発表予定だった長崎市の中学生との交流会が台風の影響で中止になってしまい、別の交流会での発表になった。それでもB班は二日ほどで新しいプレゼンを作り上げてしまった。プレゼン作成がなかなか進まない私たちは焦り始め、仲間割れするなど、ピリピリした雰囲気になってしまった。どうしたらいいか思い悩んだあげく、こんな時だからこそ、自分の思っていることをチームのみんなに伝えなければいけない、ということに気づいた。意見のぶつかり合いがあった時は、二つの意見をうまくまとめた意見を提案したり、新しい考えが出てきたら、それを結びつけたり、さらに深めたりすることの必要性も実感した。人はそれぞれ考えることや感じ方が異なるので大人数で一つのことをまとめる

ということは、本当に大変なことだ。しかし、見方を変えれば、それだけ多くの考えを生み出し、よりよいものを作り上げることでもできるのだ。普段あまり発言しない人がとても良いアイデアを持つているかもしれない。このプレゼンは、強く意見を言える人だけで作るものではなく、メンバー一人一人が協力して作り上げていかなければいけないのだ。そう気づいた私は、積極的に意見を言うようになり、みんなに「その考えいいね。」と言われた時は、大きな自信になった。プレゼンの中でも一人一人担当箇所があって、そこで一番伝えたいことをどんな言葉で伝えるか、みんな悩みながら作り上げたことや、毎晩遅くまで起きて仕上げた時間は、大きな自信となった。「今までこれだけやってきたんだから、成功しないわけがない。」と心から信じて、本番である長崎市内の中学校での平和集会に臨み、無事成功させることができた。

さらに、原爆を落とされた長崎の地を実際に訪れ、語り部の方の話を聞いたり、平和集会に参加したりして、もっと多くの人に原爆の恐ろしさ、戦争の愚かさや悲惨さを伝えていきたいと感じた。それは、東日本大震災を経験した私たちと同じように、原爆被害者にしか分からない当時の状況や辛さ、大切な人を失った悲しさがあることを知ったからだ。そういう心に傷を負った人たちと実際に触れ合って、私たちにできることは何なのか、これから何をしておくべきなのか、改めて考えさせられた。

今回の長崎派遣は、今まで自信が持てずに不安なまま生きてきた私に、自信と新しいことに挑戦する勇気を与えてくれた。これからの私の人生には乗り越えなければならぬ壁がたくさんある。でも、自分の意志を強く持ち、相手に伝えていける、そんな気がする。

私は生徒会長を務めていましたが、リーダーとして自信をもてませんでした。そんな中、いわき生徒会長サミットの長崎派遣に向けて、仲間と苦労しながらプレゼンテーションを創り上げました。その経験を通して、自分の考えをしつかりと持ち、何事にも積極的に挑戦することが自分に自信をもつための第一歩だと学びました。